

## 十倉 雅和 社長 年頭あいさつ要旨

創業100年にも当たる本年、当社は、4月から始まる新しい中期経営計画で、引き続き「**強固な財務基盤の構築**」を重要課題に据え、有利子負債の削減やD/Eレシオの改善に取り組んでいく。また、「**次世代事業の育成**」や「**グローバル経営の深化**」を継続課題に据える一方、当面は厳しい事業環境が続くという前提に立ち、新たな経営課題として「**事業構造改善**」を掲げ、不採算事業の撤退や縮小を含めたあらゆる可能性を追求していく。このように、4月から始まる3年間を、次の100年も発展を続けるための「**強固な経営基盤づくりの期間**」と位置づけ、高収益基盤の確立に向けた諸施策を、着実に推進していきたい。

当社が、来る100年も持続的に発展していく上での大前提は、**安全の確保とコンプライアンスの徹底**である。「安全をすべてに優先させる」という基本理念に立ち、全員が当事者意識をもって相互に啓発し合うレベルまで、「安全文化」を深化させていく。また、企業としての社会的責任(CSR)を果たすべく、法令遵守はもちろん、社会規範や企業倫理を守ることを常に念頭において行動することを、改めてお願いしたい。

世界には、環境問題や、資源・エネルギー問題、食糧問題、貧困問題など、数多くの課題が存在しているが、「化学」は、「現代の錬金術」とも称され、新しい材料や新しい機能の創出において無限の可能性を秘めており、こうした課題を解決する潜在的な力を有している。当社が、「環境・エネルギー」、「ライフサイエンス」、「ICT」の3つの分野を、成長が期待される事業領域と位置づけ、重要課題「次世代事業の育成」として鋭意取り組んでいるゆえんでもある。

当社が、これからも総合化学企業として成長を続けるためには、新たな価値を生み出す「**創造的ハイブリッド・ケミストリー**」を、**オープンイノベーションも取り入れながら推し進め**、広く社会に貢献すると同時に、会社自らも“果実”となる製品や技術を生み出し、共に持続的に発展していく必要がある。既存の枠にとらわれない自由な発想の下、高度な知識や技術をもったプロフェッショナルとして「**イノベーション**」を起こし、「**コミュニケーション**」を充実させて力を結集してほしい。

現在のような難局下においては、**基本に立ち返り、本質を見定め、しっかりと土台固めを行うことが重要である**。厳しい事業環境が続くが、現状をしっかりと見据え、これまで10年の計として取り組んできた「**石油化学事業の抜本的競争力の強化**」、「**ライフサイエンス事業におけるクリティカルマスの確保**」、「**将来の核となる新規事業の育成**」の集大成を行い、努力と「**イノベーション**」を重ね、高収益基盤を確立させ、「次世代事業の育成」を推進し、新たな成長を目指さなければならない。次なる100周年に向かい、全員で、力強く歩みを進めていきたい。

以上